

アベノ政治のダブルスタンダード

課 題	アベノ保守派としての建前	アベノファシストとしての本音	ごまかし方	批判的視角
何がやりたいのか	経済成長を求め、日本を豊かにする。*	世界の中で輝ける国を取り戻す	アベノミクスの幻想で支持をとりつけ国家主義に邁進したい	国という共同幻想にとらわれないこと
過去の戦争の反省	村山談話・河野談話を継承する。	戦争に負けたこと。負ける戦争をしたことだけ反省。侵略・植民地支配の反省はしない。	反省・謝罪ということばをつかうことによって、反省しているふりをしてごまかす。	戦争はひとを殺し、傷つけること。戦争許されないことというところから出発すること。殺すことも殺されることもいやだということ。
侵略戦争について	近隣諸国との関係で「反省・謝罪」する	侵略ということばは使わない「アジアの解放戦争」という位置づける。「日本統治下で経済が発展・感謝している国がある。」	侵略の定義は歴史学者にまかせるとごまかしてきたが、憲法で憲法学者にまかせないとしたので齟齬が生じている。	「力による国境線の変更は許されない」という批判は、侵略の定義であり、過去の日本がやったことの反省につながる
過去の戦争の性格	間違った戦争	強いられた戦争という性格	過去のことはことばのあげ足取りや数の問題でごまかし、隠蔽する、反省しない。	侵略、植民地支配の歴史をきちんととらえ返す。
戦争に対する考え方	戦争ができる状態にしておくことが戦争を防ぐことになる積極的平和主義	国家(の威信と利害を)守るためにはどのような戦争でもできる状態にしておく	(表に出せない)脅威論を底流にして、平和を守るいうところで、戦争できるようにしておく	武力で平和は作れないということをしっかり、過去の歴史からとらえ返す
支持基盤	財界と経済成長下での保守層	ファシスト	経済成長があれば国民もうるおうという幻想に包摂する	ヨーロッパでは、ファシズムの総括が一応なされた。だから、保守とファシズム政党は分離している。日本では、戦争とファシズムの総括がきちんとなされないままに、ファシズムを包含して保守政党が政権を担当してきたことが問題。経済成長などはもはや幻想。
国民と国家の関係	経済成長があれば国民の生活も豊かに	国家の下に国民はある。国民は国家に尽くす存在	国家国民の論理で国家の発展が国民の幸せという幻想に包摂する	国家—国民の論理から脱していくことが必要

課 題	アベノ保守派としての建前	アベノファシストとしての本音	ごまかし方	批判的視角
思想	自由と民主主義	国家主義	「社会主義国家」が自由と民主主義がないということで資本主義の優位性を説きながら、自由と民主主義を解体するファシズムへ移行する	アベノ政治の根幹は国家主義。そもそも国家とは何かということから問い返していく、国家—国民の論理にとらわれない、国家主義批判が必要。
戦争法案の解釈改憲	憲法に違反していない・しないことを強調	憲法改正をしたいができないから解釈改憲でごまかす	立憲主義や法的安定性論を脅威論で抑え込む	武力による平和秩序はありえないことを歴史からとらえ返す。脅威論批判。
歯止め論	憲法に違反していないことを主張するためには必要	いつでも、戦争ができるようにフリーハンドにしておくには邪魔	なし崩し的にやっていくこととしてとりあえず歯止め論を出す	過去の安保法制のなし崩し的推進では、「歯止め」などにはならないことは明らか。歯止めとしてあった「集団的自衛権」をとりあえず成立させるために出しているごまかしとして批判する
侵略・覇権主義	覇権主義を批判する	強い者が勝つのは当たり前・強くなりたいたい・軍備拡張する	自分たちの過去の覇権主義・侵略戦争は棚上げする	「強者—弱者」の論理から批判していく
歴史修正主義	戦争は間違っていたという「反省」と未来志向の関係作り	戦後レジュームの総決算。自虐史観ということばを使って反省を反故にする。	国家の共同幻想・愛国心から自虐史観で修正主義の主張を通す	そもそも、戦前・戦中レジュームの解体がなされなかったことが問題。そこからきちんと批判していく。
東京裁判	ポツダム宣言で受諾した戦後日本の出発点	戦勝国によって押し付けられた屈辱の裁判	戦争責任をあいまいにする	自分たちで戦争責任を問題にし得なかったことから来ている。改めて戦争責任を問う
靖国参拝	近隣諸国とアメリカとの関係で行けない	堂々と参拝する	とりあえず、参拝はしないで、各種奉納で我慢する	そもそも靖国はファシズムの思想的基盤としてあったので、これを解体しなかったのが問題。政教分離の原則にも反している。
憲法の位置づけ	戦後日本の出発点・これによって日本の発達があった	戦勝国によって押し付けられた憲法	積極的平和主義ということばでごまかす	憲法9条を世界の憲章に。軍事同盟を破棄し、非武装中立論に立ち戻る
教育	愛国心を育てる	「国家のために死ぬる国民」にする教育	愛国心から国家の論理にからめとる	そもそも国家とは何か、教育とは何かということから問題にする

課 題	アベノ保守派としての建前	アベノファシストとしての本音	ごまかし方	批判的視角
人間観・世界観	自由競争の論理・能力主義	社会ダーウィズム	人間も動物だから自然の法則に逆らえない	ダーウィン進化論から批判していく
アベノミクス	(破綻するところで、「持続可能な経済成長」論へ転換する・・・アベノミクス後の保守政治のソフトランディング)	破綻したら、「景気回復、この道しかない」というところで、戦争とファシズムに移行	国家主義的なところを推進するために、財界の支持をとりつけ、国民を幻想に絡め取る手段	そもそもグローバルゼーションの中で、経済成長戦略は、格差拡大にしなければならないこととして、その幻想性・誤りを徹底的に暴く
尖閣・竹島問題	日本固有の領土	これで、脅威論を煽り国家主義的に包摂する	マスコミ・革新勢力もからめとっている	過去の植民地支配に付随して領土化したこと。そもそも国家・国境の論理、土地所有の論理から批判していくこと
拉致問題	解決すべき緊急の課題	脅威論で政治利用	制裁・強硬論で包摂する	自国の植民地支配を反省することから出発すべきだったこと
原発問題	原発は日本経済のために必要	核爆弾をいつでも作れるようにしておくために必要	電力不足というところでごまかしてきたが、結局電力会社の利益のために再稼働させようということが明らかになってしまって、ごまかしが破綻した。	電力不足ということや、エネルギーコスト的にも、原発の存在意味はないことは明らか。既に投資してあるものを、税金を流用しながら使おうという電力会社の利害に政策的に奉仕しているだけ。核廃絶運動とつなげて、危険性を暴露しながら、廃炉・新たな原発を建設させない運動につなげていくこと。